

さあ サッカーからレイシズムをキックアウト!

国連人権高等弁務官事務所は今年の国際人種差別撤廃デー（3月21日）に、スポーツにおける人種主義に関するパネルディスカッションを開いた。

サッカー場における人種主義

イタリア、ミラノ近郊で行われたプロ・パトリアとの親善試合（2013年1月3日）で、ACミランのチームに対する人種差別的な発言に抗議をし、チームを率いて退場したケヴィン＝プリンス・ボアテング選手は、「最初はレイシズムを無視しようとしてました、しばらくすればなくなると思ってた。しかし間違っていました。レイシズムはなくなりません。ほうっておけば広がるだけです。それに立ち向かい、闘わなければいけません」と述べた。事件については、「あの時とった行動は正しかったと思う。二度とあのようなことは起きてほしくありません。選手が退場を決めるような事態になってはいけません。それを決めるのは審判です…。レイシストの合唱を聞いたらゲームを中止すべきです。」と加えた。「プリンスは勇敢でした。だから他の選手も彼を支持しました。」元フランスの世界的サッカー選手であり、現在マンチェスター・シティFCのサッカー発展理事であるパトリック・ヴィエラさんは述べた。「今日の議論はサッカーにおける人種主義に取り組む大切なチャンスとなります。」と、彼はつけ加えた。

主催者としてナビ・ピライ国連人権高等弁務官は、「今こそサッカーから偏見をキックアウトする時です。プロ・パトリア事件をよい機会にして、スポーツにおける人種主義と闘いましょう。」と宣言した。

FIFA（国際サッカー連盟）のゼップ・ブラッター会長の代理であるフェデリコ・アディエチさんは、審判はレイシズムや人種差別の行為を見たら反対するよう指示されていると述べた。「ケヴィン＝プリンス・ボアテングが信念に基づき勇敢な姿勢を見せたことをFIFAは支持しました。しかし、それは解決策にはならない。あれは警鐘でした。選手の誰一人としてあのような選択を迫られてはなりません。」と述べた。

「同世代の数百万人の南アフリカ人と同じく、私も偏見に囲まれた中で育ちました…。しかし、私は教育と模範は無知と偏見を勝るということを人生から学びました。理性をもって組織的に偏見に挑戦すれば、否定的な固定観念は消えていきます。」とピライさんは述べた。

著名人としての責任

著名人がレイシズムの闘いにおいて果たせる役割についてパネリスト数名が意見を述べた。「スポーツ界、音楽業界、メディアにいる人びとは、他の人にはない機会をもってい

ます。私たちは、政治議論がとうてい届きそうにない社会の部分に向けて語り、人びとの心にしみこむメッセージを伝えるのです。」とボアテングさんは述べた。

サッカーの管理者にも人びとを導く役割があるというピライさんの意見にパネリスト全員が賛成した。「イベント主催者は人種主義行為が明確に禁止された安全なスポーツ競技場を提供するべきです。どんなことがあっても、最低限、すべてのレイシストに対して即時、決然とした行動を取らなければなりません。」とピライさんは述べた。

ゼロ不寛容と制裁

FIFAは人種差別と人種主義に対するゼロ不寛容の指針を採択しており、欧州サッカー連盟（UEFA）はそれを常に強調している。UEFA会長の上級顧問であるウィリアム・ガイヤードさんは、これらの指針は人種主義、反ユダヤ主義、ジェンダーに基づく愚弄、同性愛嫌悪など、「サッカー競技場に留まらず一般社会でも受け入れられない」すべての不適切な行為に当てはまると述べた。

不処罰にとり組む

「国は差別と人種主義のあらゆる徴候をなくすために、国内法および国際的な義務にそって措置をとらなくてははいけません。」「ダーバン宣言と行動計画実施に関する政府間作業部会の事務局長マクター・ノディは強調し、「スポーツにおける不処罰の問題をこのままにしておいてはいけません。加害者は法律により処罰されるべきです。」と述べた。

2001年の反人種差別世界会議で採択されたダーバン行動計画は、「国家」に対して、政府間組織、国際オリンピック委員会、国際および地域スポーツ連盟と協力して、オリンピック精神に象徴される理解・寛容・公正なプレイ・連帯の精神のもと、スポーツにおける人種主義と正面から向き合うよう“促している”。

「私はサッカーのルールを変える必要はないと思います。ちゃんと使いさえすれば、人種主義の問題に十分対応できますし、大抵の国は新しい法律を作る必要もないはず。何が重要なのかと言えば、問題に向き合う確固たる意志です。サッカー協会や各国政府も同じ意志をもって行動をとるべきです。」、あらゆるレベルのサッカーの試合から人種主義をなくすことを目指した汎ヨーロッパの組織であるFAREネットワークの理事長、ピアラ・ポワルは述べた。

〈出所：国連人権高等弁務官事務所ウェブサイトより〉



サッカーからレイシズムを蹴りだそう。(国連人権高等弁務官事務所ウェブサイトより)